

# CONTENTS

1996・1 MUH VOL. 7

HAYANO GROUP  
COMMUNICATION MAGAZINE



表紙の写真  
「清里高原の樹氷」

八ヶ岳南麓に位置する清里高原は、標高1500m以上の高原地帯である。涼を求める夏にぎわいとは正反対に、冬はまさに激寒の地に極変わりする。しかし、そこは当路ウインタースポーツに絶好の地へと変貌する。近在にはスキー場なども数多く、冬を心から楽しむ夏とは違った清里を見ることができる。

八ヶ岳から吹き込む「八ヶ岳風」に乗って、冷やされた霧がカラマツ林の樹木にあたり、そこに凍りついで水となった「芸術」が見られる。カラマツの細かな枝に無数に結晶は、太陽の光でキラキラ輝きめぐら。さながら自然のクリスタル。この自然の造形美には、ただただ感動のひとことだ。誰か彼方の心地でさえ今度は胸騒でしかない。

(写真と文:浅川 錠)

「MUH」vol.7 1996.1.1  
企画／早野グループ「MUH」編集室

深沢進・矢田道生・桜林友美・久保田充一  
編集／株式会社ニュースメディア甲府  
三浦弘・三井君男・五味剛・清水広子・石原由  
美子・高山ひとみ・赤井美佐穂  
日本工業経済新聞社

印刷／有隣会社オズプリント

誌名の「MUH」は、早野組の社訓である「和」を託した  
Mate(仲間)、Union(結束)、Harmony(調和)の頭文字  
からとりました。幻のムード感のロマンを目指します。

フォーラム テーマ お守り 江宮隆之・古屋久昭・岩崎正吾・佐藤真佐美	2
特集 山梨21 キャサリン・アニー・オーエンスさん シルビアンヌ・グイヤデールさん ホスト早野 蕉 ようこそ、仲間たち 漢字と格闘、日本好きに データ 異文化サラダ・ボールをめざして (財)山梨県国際交流協会	4
トピックス '96今年はこうなる!!	10
企業ウォッチング 本栖高原ホテル 長谷川 晴之 氏	13
サークル訪問 「シルクフラワーグループ」	14
インフォメーション 早野組・トヨタビスタ山梨・トヨタホーム山梨・甲府通運	16
ようこそ歴史 甲斐の徳本 上野晴朗	18
アートへのまなざし 名画に描かれた動物たち6 山本育夫	20
トレンディ フラワーアレンジメント	22
BOOK こんなところに山梨… BOOKコーナー 平安の都	23
リレーエッセイ 街並一考 中村房江	24
甲府通運前史を訪ねる(1) 林陽一郎	25
ユーザー訪問 株式会社 日野原	26
お家探題 望月 岡さん(田富町)	27
ワンポイント情報 トヨタビスタ山梨・トヨタホーム山梨	28
ときのひと・FACE 永年の努力が認められ大臣表彰受賞・武居照夫さん	29
おしゃれ 手芸センタートーカイ / 広べる 魚保	30
甲州の野邊にて ③ 先人の心に還る「無生野の大念仏」 志摩 阿木夫	31
コラム 某月某日	32



## お札(ふだ)について

江宮陸之

お正月。何処の神社に行っても必ず初詣の人々で賑わっているのが、おみくじとお守り売り場である。中には、初詣ではこの「おみくじ」と「お守り」のために行くものだと勘違いしている向きもある様で、お賽銭よりもこっちに使うお金の方が多いとか。

おみくじの値段は、ここ10年がところ一回(「一回というところがいいじゃありませんか」)100円が相場。高いところでも200円を越えることはないとか。だが、お守りになると、値段にかなりの格差がついたりする。もっとも、格差というのは、身に付けるお守りだけではなく神棚に上げて飾むためのお守り(あれは守り札といいましたっけ?)が加わるからで、普通、肌身に付けるお守りはたいした値段はいたしません。

神社のドル箱的存在がこの守り札であることもまた確かで、一時期は(バブルの頃ですが)、壱万円を超すような豪華な(?)守り札が飛ぶように売れたという。ところが最近は(当然バブルが弾けて以後のことですが)安いものの方がよく出るようになっているとか。神様も躊躇みされたものですね。何しろ、こういうご時勢。初詣でというのは日本全国で、行かない人の方が少ないというから、神社やお寺への人出は毎年増える一方。そのくせここ2、3年というもの、「人出は増えても売り上げは人出ほどには上がらない」と嘆く「神社関係者」が多くなっている。

そこで神社側も何とか売り上げを伸ばすための、アノ手コノ手を考える。「人間の一一番弱点を突くんですよ」。それは何かと尋ねたところ「中流意識」との答え。「お札をね、最高級、高級、普通と分けるんですよ。すると大抵の人が、真ん中の“高級”を買っていくんです」。神社によって値段に差はあるが、大体5千円、3千円、千円、もしくは3千円、2千円、千円といったところらしい。

今年あたりは景気が少し戻ってきたというから、「高級」の値段もちょっと上がるかもしれない。「ところで値段によってご利益は変わるもの?」の問い合わせくだんの神社関係氏、「いえ、神様は平等ですから。つまりは人間の見栄とか、信頼心とかの問題でしょうな」。ケロリと言ったものである。

■1948年北海道生まれ。『経済記』で第13回歴史文学賞。著書に『凍てる指』『山梨人物博物館』など。『白磁の人』は日本と韓国同時発売。第8回中村星湖文学賞受賞。

## 私にも宝物のような「お守り」があった 古屋久昭

ハテ? 「お守り」といわれても、困ってしまう。このテのモノやコトには全くといっていいほど、私は無関心、無頓着人間である。とはいえ、何か一つぐらいないと話にもならないから、乏しい記憶力をフル稼働して想い出してみた。

20代、私はよく山登りをした。夏山のうちはそれほどでもなかったが、冬山となると、イコール「遭難」と、私の周辺の人たちは決めつけてしまうのである。私の母方の祖母などは異常なほど的心配症で、冬山に出かけるたびに「お守り」を作つて私に持たせるのである。お手玉のようなものに「お守り」ということばを糸で縫いあげたまさに心のこもった「お守り」であった。

お陰で、一度だけ北岳山頂付近で吹雪に襲われ転落しそうになつたこと以外は、5、6年続けた冬山登山も無事であった。

21、2歳のころ、サイクリングで北海道から九州まで日本列島を縦走した。出発前、当時つき合っていた女性からペンダントを「お守り」といわれ強制的に身に付けさせられた。もちろんペンダントの中には彼女の写真が入つていて「ああ、くたびれた」なんていう時には、その写真を見ては、「明日も頑張るゾ」と彼女に誓つたものである。

今の妻(といつても初めてから同じだが)からも「お守り」はもらったはずである。20代後半、1か月近くヨーロッパをスケッチ旅行した時、何かそんなふうなものを身につけたような気がする。妻にも尋ねてみたが彼女も具体的にそれが何だったのか忘れてしまったというから安心した。

ところで私は究極の「お守り」があったではないか、と今気がついた。まさげもなく私自身の手づくりというか、身づくりでつくった「お守り」なのだ。それは10年ほど前につくったもので、わずかに6ミリという小さな「お守り」なのである。実は何を隠そう、その「お守り」というのは私の世のうに今でも納まっているボリュームなのである。これは誰にもゆずれない。私にとって宝物のような「お守り」である。つまり私の守護神でもあるのだ。裏切るなよ、守護神!!

■1943年徳島町生まれ。日本詩歌文学館評議員

## 父のお守り

岩崎正吾

ハンドルを握っていると、近くで小さな音がした。交通安全のお守りが、フロントガラスにぶつかっている。

ところで、わたしが免許証を取ったのは四十八歳。やっと今年初めての書き換えをしたところである。職場と家が近かったから、若い頃からクルマを持つ必要性がなかった。田舎に行くのが好きだったが、電車やバスを使って不自由を感じたことがなかった。

それが、にわかに免許を取ることを思い立ったのには、大きな理由が二つある。一つは職業作家として、山村のことをきちんと調べて書きたいという気持ちになったからだ。たいていの山里にはバスが通じているが、ここ数年、本数が激減している。遠くだと、日帰りが難しくなった。

理由のもう一つは父母が老齢になり、「足」が必要になったからだ。行きたい土地があるなら連れていくてやりたいし、いずれ病院通いが必要な時が来るかも知れないなどと思ったのである。

わたしが運転に慣れるのを待っていたかのように、今年の九月、八十一歳の父が病に倒れた。猛暑の中でも畠に出ていたが、夏が終わると突然、物が食べられなくなった。医者嫌いの尻を叩き、近所の開業医の診察を受けさせた。父は医大に入院し手術を受けることになり、追うように母も持病があり返し入院手術ということになった。いつか親がこうなることを覚悟はしていたが、二人同時になろうとは思いもよらなかった。

この秋、紅葉を楽しむゆとりもなく、わたしは二つの病院を往復した。クルマが運転出来ることの有り難さをしみじみ感じた。タクシーを使ったなら、ここまで自在に病院に行くことは出来なかつたろう。そうしたある時、わたしはクルマの中でカタコト鳴る音を意識した。そのお守りは、昨年、父が自転車で厄除神さんに行ってもらつて来てくれたものだ。

父が間もなく死ぬ運命にあることを、わたしは医大の医師に告げられていた。

■1944年生まれ。ミステリー作家。地方出版社「山梨ふるさと文庫」代表。長編小説に「闇かがやく島へ」(角川文庫)「異説本社寺・信長殺すべし」(講談社)など。最近初のエッセイ集「地方出版・地方作家・事始め」(山梨ふるさと文庫)を刊行。

## 神の語学力

佐藤真佐美

キリスト協会の青年部で人形劇のボランティア活動をしていたころ、ギニョールとかマリオネットの発祥の地がリヨンと知り、がぜんフランスに憧れたことは、いつかどこかに書いたかもしれない。大学の第2外国語にフランス語をとりラジオ講座で学び、ある日リヨンの新聞社を調べて片っ端から手紙を送った。

「フランスで人形劇を学びたい。スポンサーを求む」

忘れたころ、見慣れぬ切手を貼った航空便が届きはじめた。十数人の少年少女から「切手を交換したい」という手紙を受け取つたが、スポンサー(身元引き受け人)承諾はゼロ。たった一人、アパートの一室を提供したいという人がいた。それが7か国語をあやつる翻訳業者、ジャン・アラン・サートルとの出会いであった。結局ぼくのフランス留学は実現せず、いつか地球のどこかで会おうを合い言葉に、彼との30年弱の文通がつづく。

ジャンは離婚を経験し、ぼくも結婚し共に両親を失い、彼は五十路を過ぎぼくも四十代に別れを告げる頃、ぼくらは成田空港で涙ながらの初対面。彼は日本に一ヶ月滞在した。九州・四国旅行などをはさみ、最初と最後のそれぞれ一週間を我が家で過ごした。日本を離れる前日、ぼくは彼を富士山へ案内した。5合目の小御岳神社にお詣りした時ジャンは、小御岳神社神崖をふたつ買い、ひとつをぼくに渡してこう言った。

「これはおれたちの、永遠の友情の記念だ」

「お互いのマスクットにしよう」

裏に一九八七年八月二十四日と、ぼくは日付を記した。

ジャンの招待で1990年8月、思い立ってから30年目にぼくは憧れの土地に降り立つ。パリの初日にノートルダム寺院を訪ね、ぼくも友情の記念品を求めようとしたのだが、あいにくフランスに神崖は売っていない。その夜セーヌ河畔の一杯飲み屋で若い未亡人をめぐり、30年来の友情にひびが入りそうになったのは、神崖の効き目がなかったということだろうか。いや、小御岳の神はフランス語を知らなかったにちがいない。

■1939年北海道生まれ。日本児童文学者協会・日本児童文学協会会員。著書に『怪奇! 大東京妖怪ゾーン』(ボブロ社)『文ちゃんのはるかな知床』(北海道新聞社)近著に『シレットフのシルバー』(草薙社)など。

国際交流のたのしさ  
外からの目 内からの目で再発見  
山梨の暮らしと文化

ゲスト

- ・キャサリン・アニー・オーエンスさん
- ・シルビアンヌ・グイヤデールさん

ホスト

はやの きよし  
**早野潔**  
早野組社長

ようこそ、仲間たち  
漢字と格闘、日本好きに

**早野** 新春にふさわしく、今日は外国からのお客様をお迎えして、国際交流の楽しさ、また、外からの目、内からの目で、これから暮らしに光をあててみたいと思います。

**キャサリン** 私はオーストラリアのシドニーからまいりました。日本

での滞在は2年目。昨年の10月に山梨に来て、県の国際課で仕事をしています。大学では日本語を専攻し、むずかしい文法や漢字をせっせと勉強しました。でも、日本をもっと知るには、日本に住んでみることがいちばんと、卒業と同時にやってきました。

**シルビアンヌ** フランスはパリの出身です。これまで、イギリス、ス

カンジナビア、イスラエルなど、いろいろな都市を訪ね、日本に来ました。大学で日本語は学びましたが、教科書での事前の学習や、特別なイメージにとらわれず、世界の都市のひとつとしてやってきましたから、その分、驚きや発見が新鮮です。昨年の8月から、県の国際交流員として仕事をしています。

**早野** お二人とも、しっかりととした日本語をお話なさいますね。同じ日本の若い世代と、思わず比較してしまいました。お国では、日本を知る機会はありますか。

**キャサリン** シドニーに限っていえば、日本語を教える学校が急増しています。今、日本語はブームといってよいでしょうか。経済的に日本は強くなっていますから、日本語を身につけることでよい仕事に恵まれたいというのがその大きな動機のようです。

**早野** 市民生活のなかで、日本の話題が登場することがありますか。また、日本を知りたいと思った時、身近に期待に応えてくれる施設はありますか。

**キャサリン** シドニーには日本の



早野潔



キャサリンさん(左)とシルビアンヌさん(右)

文化センターができましたが、地方の町ではどうでしょうか。端的に言うなら、日本のレストランはあっても、日本の生活文化について知る機会は、残念ながら、一般的には不足しています。

**早野** たいへん分かりやすいとえです。わが日本にも、世界中のレストランはありますね。しかし、さて、その国々についての知識となるとあやしいですね。

日本に今日の関心  
エキゾチックな国でなく

**シルビアンヌ** フランス人にとっ

ては、いまだ、日本は魅力ある異郷の地です。日本語を学ぶ人は多くなってはいますが、漢字や表現の難しさに出会うと、やはりフランスと日本とは考え方の違う異国である、と諦めてしまいます。それを乗り越えるためには、たんに語学ではなく、歴史や文化に深い関心がないといけません。それに、今日の日本に関心がなければならないでしょう。ただ、富士山、芸者といった、エキゾチックなだけの興味では、長続きしませんから。

**早野** じゃあ、日本にいらして、カルチャーショックはありませんでし

たか。

**シルビアンヌ** はい、それは。世界各国を訪ね、文化や歴史はそれぞれ異なっても、みんな「ひとしく人間である」ということを経験しているからで、また、発見できるからです。経験で学び、対話で理解し合うというのが、私の国際交流の基本姿勢です。

**早野** これまでの滞在でお感じになった日本、および日本人には、どんな印象をおもちですか。

**キャサリン** 国際交流が盛んとなつてはいますが、そして、小学生から語学を学ぶなどして教育には熱心

ですが、ほんとうに日本人は世界を知りたがっているのかと、疑問に思うことがあります。たとえば、オーストラリアには日本からの旅行者は多いのですが、いずれも集団で、目的は観光です。大歓迎なのですが、一人一人が何を見、何を考えたのか、という観点からは、どうしても疑問をもってしまいます。

#### レッテルで判断する日本人 もっと知りたい個人の発言

**シルビアンヌ** 日本人が集団のなかに埋没している、という印象は同感です。パリでも、日本人観光客の買物を見ていると、ファッションでも香水ひとつをとってみても、いずれもレッテルだけで判断しています。ですから日本人は表面的だ、という評判になってしまいます。

**キャサリン** 私の知りたいのは「あなたの考え、あなたの発言」です。日本人は、消極的なのでしょうか。あるいは、鎖国の名残なのでしょうか。

**早野** 日本人は長い歴史がありますから、調和というものを尊ぶところがあります。人間関係が洗練され



ていますから、直接的なや、あからさまなことを恥ずかしいと受け止める感受性があります。また、頭や心ばかりでなく、腹を大事にします。「腹におさめる」という言葉があるように、奥があります。これは、日本人の個性で、日本の古典芸能の豊かさが証明するところです。もちろん、政治や経済においては、「明快さ」は世界から求められることでしょうし、応えていかなければなりません。

**シルビアンヌ** 確かにフランスをはじめ多くの国では、外国人がたく

さんいて生活しています。そうした環境では、常に自己表現をしていくことが大切になってきます。また、平等という意識も早くから芽生えていて、家庭でも食事をしながら親子が自由に意見の交換をします。学校でも、先生と会話を楽しめます。個人を尊重する生活習慣ですね。日本は「敬語」があるように、なかなか人間関係が難しそうです。日本の学校を見ていると、どうも制度化されていて、個人の人格を築くことを認めてくれません。それで生徒は考え方



ることをしないで、みんな機械的にものを見て勉強しています。

**キャサリン** 子供も大人も、勤勉ですね、みなさん。でも、少し忙し過ぎます。オーストラリアでは、自然もあり、都市整備にも余裕があり、もっとゆったりと時が流れている気がします。

#### もっと生活を楽しく 腕時計を時には外して

**シルビアンヌ** 東京に滞在していた時にはストレスがありました。住

まいと仕事場の距離が長いし、電車も道路も人にあふれています。そんななかで、みなさん、時計ばかり気にして生活しています。いわゆる社会の時間だけに生きていて、自分の時間を充実させていません。パリでは、友達に会って会話を楽しんだり、レストランで食事をすることを大切にしています。でも、山梨に来て、今ではのびのびと生活し、仕事をしています。素敵な環境だと思います。

**早野** 国際交流が積極的になってから、日本人は外からの目に刺激さ

れたり、批評を得て、そのことによって客観的に、自分たちの自画像を描くことができるようになっています。余暇の充実というようなことも、このところ自覚はじめています。ただし、余暇の充実というと、これまた一生懸命になって、かえって疲れてしまうところも、いかにも日本的ではあるのですがね。

**キャサリン** 私たちも日本に来て、まず、自分たちのこれまでの生活との比較からものを見ています。素朴で、直感的な感想や受け止め方が多いと思いますが、やがて、そのなかから、日本人の尊ぶべき個性を見していくのだと思います。そのことで、また、私は私を発見していくことでしょう。さきほど、集団性への批判がありました。しかし、その力が第2次世界大戦後の復興をもたらせたのだし、何よりも感銘したのは、先の阪神大震災での国民を挙げての援助活動でした。ひとつの困った問題に、みんなが取り組むという姿は、どうでしょう、世界に例を見ません。お年寄りに対する心づかいというのも、日本では生活習慣になっていることがよくわかります。



■キャサリン・アニー・オーエンス  
オーストラリア 山梨県国際課勤務 大学ではフランス語、日本語（学士号取得）を専攻  
日本での滞在は2年。昨年10月に山梨に赴任

■シルビアンヌ・ゲイヤデール  
山梨県国際交流協会勤務 大学では日本語（学士号取得）を専攻。これまでの海外生活体験をおもて、国際交流の機会づくりに活躍  
昨年8月に山梨に赴任

シルビアンヌ 公害やリサイクルについての関心も、日本は先進的だと思います。ゴミの仕分けなど、私にはこれまでそうした習慣はありませんでしたから、山梨に来て、みなさんを真似て実行しています。郊外へ出ても、ゴミは持ち帰る習慣になりました。

キャサリン 東京や大阪などの大都会が失くしたものを、山梨はもっていますね。自然との調和があります。美しい季節があります。そうした快適な町で、今年はもっと市民レベルのおつき合いを広げていきたい、そう考えています。

シルビアンヌ 国対国ではなく、個人と個人の理解が、国際交流のはじまりなのですからね。

### 個人と個人の理解から 山梨から世界へ愛を

早野 國際交流協会のクリスマスパーティーは楽しかったようですね。フリー・マーケットや、ケーキ作り、コンサートも開催されました。キャサリンさんは、オーストラリアのケーキ作りを披露されましたね。

キャサリン オーストラリアの気

候は、日本とは反対です。いわば、真夏のクリスマスです。みなさんの反応が楽しかったですね。

早野 キャサリンさんの今年の抱負はいかがですか。

キャサリン 外国人向けの英文誌を編集する仕事をしていますが、今年は積極的に山梨を探訪して、大勢の方と出会い、いい記事を書き、ここから世界に向けて発信してみたいと意欲をもっています。

早野 シルビアンヌさんは、ご主人と山梨にご滞在とうかがっています。お幸せですか。

シルビアンヌ はい、とても。主人は漫画の仕事をしています。日本の漫画をフランスに紹介する仕事を。今、ヨーロッパでは日本の漫画がたいへんブームでしてね。しかし、日本とフランスでは、生活習慣や笑いの質に少しばかり違いがあります。

シルビアンヌ 山梨で、パリに出会えるわけですね。

早野 芸術村は、世界の理想を語る交流と創造の場です。きっと、発見があると思いますよ。ぜひお出かけください。そう、桜の頃がいいでしょう。

キャサリン オーストラリアの気

ですね。

シルビアンヌ 主人はもう、私以上に日本をよく知っています。フランスの核実験では、多くの方から賛成か、反対か、と問い合わせられました。山梨の方の平和への関心は、夫婦ともによく理解しています。反対の立場ですから納得されましたが、もしも賛成と答えたらどうでしょう。その時「対話」の大切さをあらためて痛感しました。

早野 対話がなければ、友好も、平和もありませんものね。シルビアンヌさんは、長坂の清春芸術村へいらしたことはありますか。

シルビアンヌ いいえ、まだ。

早野 あの芸術村の広場に、パリのエッフェル塔の魔材の一部が保存され、活かされています。周囲の景観とうちとけて、とても似合っています。

シルビアンヌ 山梨で、パリに出会えるわけですね。

早野 芸術村は、世界の理想を語る交流と創造の場です。きっと、発見があると思いますよ。ぜひお出かけください。そう、桜の頃がいいでしょう。

[構成：三神 弘]

## 異文化サラダ・ボールをめざして

(財)山梨県国際交流協会



多彩に行われる楽しいイベント

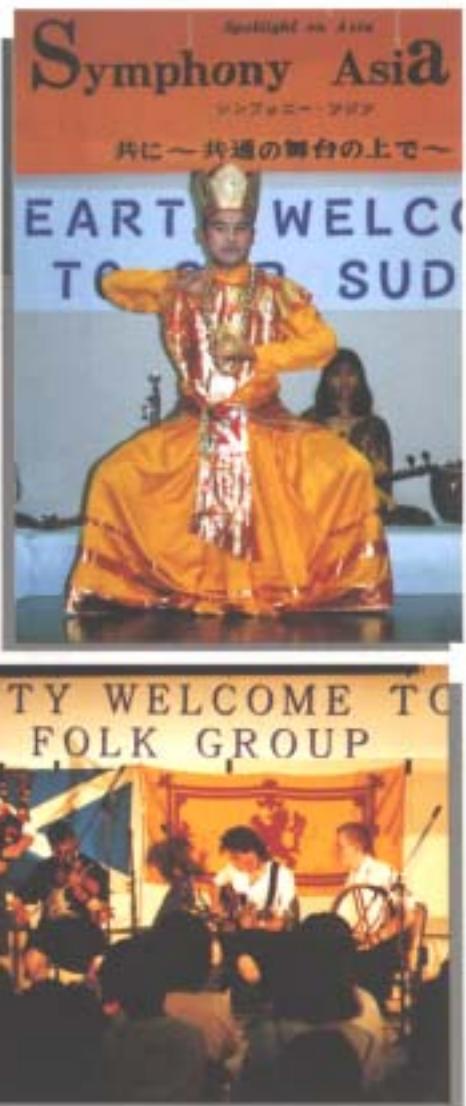
を紹介するイベントも見逃せないプログラムです。昨年6月の「スコットランドフェスティバル」では

平成2年9月10日に(財)山梨県国際交流協会が発足。同年11月30日に、県国際交流センターがオープンし、5年の月日が流れています。

最近のアジアへの関心の高まりにともない、当協会でも昨年から“シンフォニーアジア”事業を行っています。これは、アジアの一員としてアジアをさまざまな角度から見つめていこうと、県内の民間国際交流・協力団体(69団体)が実行委員会となり、3カ年にわたり実施している事業です。2年目の今年は「共に～共通の舞台の上で～」をテーマに、韓国キムチ作りやネパール料理といった料理教室、中国、バングラデシュ、ドイツ等のワールドグルメプラザ、タイ映画祭、県民との交流を図る留学生フレンドシップ・パーティー、アジア伝統芸能フェスタ等、多彩なイベントが県内各地で繰り広げられました。

センター内には外国語の小説、雑誌等を自由に読むことができる「ワールドブックコーナー」や、情報交換に欠かせない「なんでもボード」が設置されています。毎月第1土曜日、午後2時からだれでも自由におしゃべりを楽しめる「国際サロン」、山梨の伝統文化を探る「日本文化体験講座」は、外国人のみならず私たち日本人が日本文化を知る良い機会にもなっています。

国際交流センターは、形にとらわれない自由な異文化交流、紹介の場としてもっともっと利用していただ



きたいと願っています。そして国際交流協会は、交流活動に関わる皆さんを常にバックアップする団体でありたいと考えています。

財団法人 山梨県国際交流協会

〒400 甲府市飯田二丁目2番3号  
山梨県国際交流センター内  
TEL0552-28-5419 FAX0552-28-5473

Yamanashi International Association  
2-2-3,Iida,Kofu-City 〒400 JAPAN  
TEL0552-28-5419 FAX0552-28-5473

世相・社会・文化  
カオスの時代の先行きは?

## '96 今年はこうなる!!

兎に角すごい年だったというのが、多くの人々の昨年を振り返っての感想ではないか。列挙するまでもなく、平穏になれた平成の日本人たちを襲った一連の出来事は、まさしく映画のワンシーンのような鮮烈な記憶を歴史に留めた。そして幕を開けた1996年。今年はどのようなスペクタクルが我々を待っているのだろうか。政治、経済、社会、文化などの観点から大胆な未来予測をと言いたいが、それらは世情の顯学達に任せて、暮れに刊行された、週刊誌や月刊誌、新聞の論調などでトレンドとなりそうなものをピックアップして、もう少し身近なものから、今年という時代を考えてみよう。

**政治、経済—トレンドは混迷と下降局面（リサーチ誌数6、ブレジデント、諸君、文芸春秋、サビオ、週刊現代など）**

この号が刊行する頃は、ひょっとしたら選挙かもしれない。というほど混迷している政治。「第3極」「宗教法人法の改正」「行政改革」「沖縄問題」「2信組スキャンダル」など。特

に宗教法人法を巡る問題は、政権与党と野党とが真っ向から対立しているだけに、混沌このうえない。それでは経済はどうか、ポイントは次の3点。

- ①昨年、3月以降の急速な円高により輸出採算が悪化し、輸出関連企業が伸び悩んでいること
- ②昨年、前半、米国経済が減速（自動車などの耐久消費財の不振に伴う在庫調整によるミニ・リセッション）
- ③景気回復を牽引していた公共投資、住宅投資が急切れしている

（日銀甲府支店）

これに対応する財政政策は、金利の利下げと公共投資による古典的な手法によるものだ。

リセッション（不況）の波により、企業家たちの経営マインドの縮小は、利下げにより、資金調達が可能となっているにもかかわらず、設備投資に慎重（日経）だ。貸し付け先のない金融機関、不良債権をかかえた大手都市銀行間の合併や吸収、中堅や準大手証券会社の再編成が促進（文芸春秋）となるようだ。しかも、世界経済の指標であるニューヨークの

ダウが5,000ドルを突破し、これも投機筋やアラブマネーの動きが活発化したこと（ブレジデント）から暴落への警戒感が出ており、ひょっとすると本誌発行時には、大暴落となっているかもしれない。

財政上は、新年度予算が20兆円の国債発行と、過去最大規模の歳入欠陥となり、一般会計の総額も73兆円程度の緊縮財政。7兆円強は償還ができるまま将来への借金として残る（アエラ）。

リサーチによる経済系の語句を拾い出すと、「価格破壊」「イギリス病」「不確実性」「モラルハザード（道徳の破壊）」といったいやな言葉が多い。

これも世纪末を象徴しているのか。

### ■世相・社会・文化

政治や経済の話ばかりだと、新年早々、どうも湿っぽくなってしまう。それでは社会や文化の面ではどのような傾向となるのか。日経トレンド誌の流行りそうな商品などをピックアップすると—。

①マルチメディアパソコン②携帯

電話③海外通販④免震マンション⑤見えるラジオ⑥ckカルバンクライン⑦外貨預金⑧防災グッズ⑨ボディボード⑩Jラップ⑪イタリアンブランド⑫消臭食品⑬ワイドテレビ⑭発泡酒一などとなっている。

①いわずとしたウインドウズ95。各メーカーとも低価格で凌ぎを削る商戦が展開する。火付け役はインターネット。もうご存じの方も多いと思うが、パソコンによる世界的な通信ネットワークのこと。ホワイトハウスの情報から、アジア経済、フランスのファッショントマトまで家庭で世界が見える優れモノ。

③は円高によるフォローを背景に主婦などを中心に浸透。オートクチュール系のヨーロッパもの。

⑦今後の外為市場の動向によるものの、円と外貨の差益は全て利息となる外貨預金。数種類の外貨を自分で選択できる。例えばドルだと110円の時に預金を設定し、90円に振れると20円分については利息ということになる。

⑧免震マンションがブーム。従来のRC構造とは異なり、地盤と接する隙間に積層ゴムという特殊なゴムの

円柱を入れるもの。

⑪はイタリア旅行ブームと同時進行。フェラガモ、グッチ、プラダといったイタリア・ブランドに人気が集まる。フェラガモだけをとっても昨年だけで対前年比25%増となっている。やはり背景にはイタリア通貨リラの暴落と円高が起因。

ついでに⑥のckカルバンクラインだが、アメリカの衣料品量販店のGAPの日本上陸により、アメリカンティストとして現地で流行しているカルバンクラインブランドが日本で爆発。オンワード樫山といった衣料品大手が出資するカルバンクラインジャパンは当期だけで売上100億円という現状だ。

### ■ポストディマンドの時代

以上、面々と今年の傾向を書いて来たが、どうやら今年、1996年は、昨年の世相、文化などの整理や統合といった方向へ進んで行きそうだ。一言で総括すると—

「中流意識に支えられた大量消費といった物欲はなりを潜めて、より潜在化した、心や精神といった面が強

調される年」（さくら総研）

と言える。結局、不況により、サイフの紐が引き締まったために、物欲への充足感がフラストレーションとなり、その解消のために、心や精神へゆとりを求めざるを得ないという状況。買いたいものは山ほどあるのに買えないから—という世界が今年という気がする。

家計収支の悪化によって欲しいものが手に入らず、安価で実質的な精神世界に充足を求めるという傾向は「19世紀末のヨーロッパ型」（前出）。まさにディマンド（需要・欲求）からポストディマンドの時代の到来といえる。

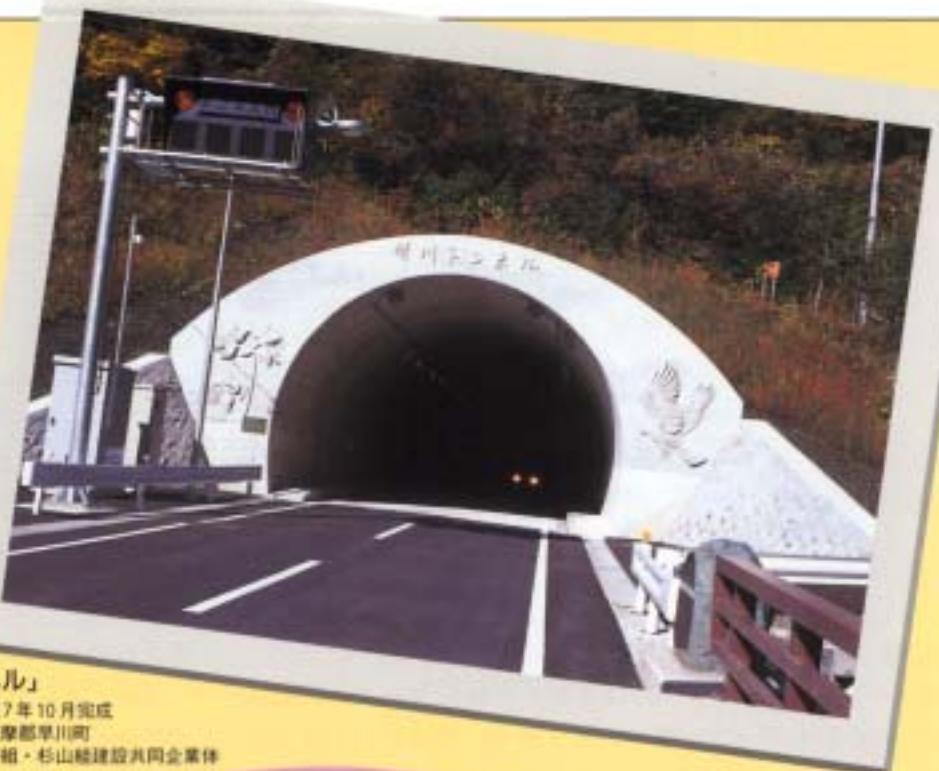
世界同時不況を予測するなど鋭い観察眼で知られる、ササンメソジスト大学教授のラビ・バトラ氏も「これからは瞑想の時代」と言う。世の中を騒然とさせたあのカルトもこれらのトレンドのはしりなのかも知れない。

「バリバリの成金趣味から、縁側の好々爺のようなライフスタイル」（前出）という。これが良いのか悪いのか。答えが出るのは1年後だ。

〔文：新谷敏之〕



HAYANO



## 幸せの入口

「明川トンネル」  
工期 平成7年10月完成  
工事場所 南巨摩郡早川町  
施工 早野組・杉山総建設共同企業体

こんなには、はじめまして、  
幸せのトピラが聞く。  
新しい出会いが行き交う…  
すいぶん便利になつたねえ  
と隣町のオジサン。  
長年待ち望んでいた  
トンネル開通は  
交流の乏しかつた地域を  
ホットに結ぶ。  
セーフティ&クリーン。  
トンネルは人と自然との  
共生を踏まえた  
「幸せの入口」。



株式会社 早野組

本 社■〒400 山梨県甲府市東光寺一丁目4-10  
TEL 0552-35-1111㈹ FAX 0552-35-1108.  
東京支店■〒193 東京都八王子市千人町2-5-24  
TEL 0426-67-8800 FAX 0426-67-8497

HAYANO CORPORATION

**中 郡 三 店** 長野県長野市西中平 2821-1 TEL:0265-22-3869 FAX:52-2171  
**新宿 营業所** 東京都新宿区西新宿4-41-407 TEL:03-3237-2897 FAX:375-7124  
**静岡 营業所** 静岡県静岡市大須2丁目4-7 TEL:0541-246-2503 FAX:246-2503  
**岐阜 营業所** 岐阜県土岐市東原町の木町1丁目32 TEL:0572-55-2834 FAX:55-2817  
**福井 营業所** 長野県小川町西高橋3,46-1 TEL:0265-83-0380 FAX:81-5488

企業ウォッチング

本栖高原ホテル

支配人  
長谷川 晴之 氏  
はせがわ はるゆき

●木橋高所ホテルデータ●

富士中央ゴルフ俱楽部の隣接施設として、平成7年7月7日オープン。シングルルーム(9,000円～)27室、ツインルーム(17,000円～)19室。チェックイン午後3時、チェックアウト午前11時。和・洋・折衷料理レストラン「リュージュ」(52席)、バー「バロン」(24席)、カラオケルーム1室、多目的ホール(最大54席)、大浴場(岩風呂、露天風呂)などがある。富士中央ゴルフ俱楽部所属の宿泊。また、一般宿泊のどちらでもOK。河口湖インターから20分、富士インターから40分、宇都宮ICから西八代橋上り→村井第十一号跨線橋→1206号(555m)→(380)→3620。

紳士のスポーツ、ゴルフ。プレー人口は年々増え続け、今や“庶民のスポーツ”になりつつある。過激な運動量を必要とせず、美しい景色を眺めながら、しゃれた会話を楽しみ、ゆったり休日を過ごす…。料金も最近はリーズナブルになり、誰でも気軽に楽しめるようになった。

■ ゴルフ場と一体化した 本栖高原ホテル

平成6年に仮オープンし、昨年10月1日にグランドオープンした富士中央ゴルフ倶楽部は、金ホールから



と建てられたのが、本栖高原ホテルだ。「会員の方へのおもてなし、もっと充実できたらと思い建設しました。ゴルフ場まで車で送迎いたしますので、スタート時間の早い方など、利用していただくと便利かと思いますし、プレーの後、ゆっくりくつろいでいただくのもよいかと思います」と長谷川支配人。「また、ゴルフ以外の一般のお客様にもどんどん利用していただきた

い。何もない所ですが、自然を楽しみたい方には、きっとご満足いただけると思います。ぜひ、なだらかで美しい高原を見てほしい!。

また、2年後の平成9年の夏には、同ゴルフ倶楽部に隣接して北欧をイメージしたテーマパーク“富士ガリバー王国”がオープンする。長谷川支配人は「家族連れや若いカップルの方などの間で話題になると思いますよ。このテーマパークも富士中央ゴルフ倶楽部と同様、私たちの関連施設なので、本栖高原ホテルにお泊まりいただくと、何かと便利かと思います」と話す。

イタリアのインテリアと料理が自慢

ホテルのインテリアはすべて、イタリア調に統一され、女性デザイナーが担当した。備え付けの家具も、特別注文されたイタリアの家具だ。エントランス、ロビー、ゲストルームと、随所に施された柔らかい色合いのデザイン、格調高く気品のある家具には目を見張るものがある。「女性ならではの、包み込むようなやさしさを感じられます。お客様にもおほめいただいており、当ホテルの自慢のひとつです」と長谷川支配人。「また、レストランも当ホテルの自慢できる点。私どもは“料理のおいしい温度”にとても気を配っています。和食、フランス料理、折衷料理と豊富なメニューを、本栖高原の風景とともにをお楽しみください」。

長谷川支配人はソムリエでもあるので、レストランのワインは間違いなし。ニッコリ微笑んで「おまかせください」とひと言。ステキな休日を過ごせそうだ。

〔取材・赤井美佐子〕

# シルクフラワーグループ

繭の花で「養蚕の村」を蘇らせる  
アイディア 研究 地道な努力  
7人の手作り村おこし

豊富村は、長い間“養蚕の村”として栄えてきた。最盛期には600軒近い養蚕農家があり、春から秋にかけての生産期には、家族はもちろん、近郷近在の親戚や知人が駆り出され、ちょっとしたお祭り騒ぎのような光景が見られた。生糸を吐き出す寸前の蚕は丸々太り、夜通し桑の葉を食べる。ボツボツ、ザワザワ…、何十万匹という蚕がもくもくと葉を食べる音が、村中にこだまする。その音は、風が葉を揺らす音にも聞こえ、小雨が葉を打つ音にも聞こえる。村の人々は、貴重な現金収入源である蚕のことを「おぼこさん」と呼び、子ども同様に大切に扱った。年がたつにつれ、生糸の値段はぐんぐん上がり、桑畑は果樹の畑へと代わっていった。今では養蚕農家は、50軒を数えるばかりとなってしまった。

その豊富村を、再び“繭”で盛り上げた人々がいる。近藤郁子を中心とする、豊富村の主婦たちのサークル「シルクフラワーグループ」だ。

## 平成元年発足 繭を利用した花づくり 週3回 主婦たちの村おこし

シルクフラワーグループは、その名の通り、蚕の繭を使って花を作り、その花を組み合わせてコサージュやリースなどの一つの作品に仕上げるもの。まず、カッターで繭を半分に切り、中のさなぎを出す。次に、やはりカッターで、何層にもなっている繭の壁を一枚一枚はいで、花びらにしていく。最後に、絹染めの染料で色をつけ、芯をつけ、ワイヤーを通して葉をつければ、一輪が出来上がる。細く切った花びらに黄色をつければガーベラになるし、ふっくらはいだ花びらに赤色を染めれば深紅のバラになる。



女性の発想でシルクの里の村おこし

このシルクフラワーを考案したのが、グループの代表者である近藤郁子さんだ。「養蚕農家の生まれですので、当然、子どもの頃から繭は見慣れてました。昔は繭で人形を作ったりもして遊んだものです。主婦業の傍ら、手芸教室を開いていたので、村の文化祭に繭で作った花を出品したんですよ、それが好評を博して、習いたいという方々に教えたんです」。平成元年、県が実施した「夢ギフト」に、豊富村の特産品として取り上げられ、本格的な活動が始まった。「繭で村おこしをしていると聞いて、新潟県の朝日村まで出かけていって研究したりして、いろいろ勉強しましたよ」。村はいつしかシルクの里と呼



シルクフラワーで作った神代桜



花に囲まれた作業場は和やかなムードでいっぱい

ばれるようになった。

現在メンバーは7人。30~60代の豊富村の主婦だ。月、水、金曜日の午前9時~午後5時まで、村の農業者研修センターで活動している。仕事場の壁には、所狭しとばかりにメンバーの作品が飾ってある。リース、かご花、鉢植えの花、コサージュ、花嫁さんのブーケなど、その色の鮮やかさに驚かされる。一見したところでは、生花だ。作業台の上にも、さまざまな花が咲き乱れている。スイセン、ききょう、マーガレット、ゆり、バラ、椿…etc。まるで、お花畠の中にいるようだ。目や手先を使った細かい仕事だが、「おしゃべりしながら、和気あいあいとした雰囲気で、楽しくやっていますよ」と、メンバーの1人は、にこやかに話す。近藤さんも「みなさんよくがんばってくれます。7人で気が合っているから、気楽にできますしね」という。

## イベント会場で展示即売 工芸館建設で 夢はふくらむ

「主な発表の場所は、県民の日ですとか、村民の日だとかいう催し物の、特産品展示コーナーです。デパートの市町村特産品コーナーに出品したこともあります。つい最近では、峡東にできたフルーツ公園のオープンにもいきました」と近藤さん。展示した作品は即売する（仕事場の展示作品も即売している）。1個300円のキーホルダーから1万円のリースまでと、値段も手ごろだ。「利益のほとんどは材料費にまわします。日当と技術料はボランティア」と近藤さんは笑う。最近は評判を聞いて、新

築祝いやお見舞いの花、冠婚葬祭用のものなど、オリジナルの作品を頼みにくる人もいる。「色あせず、半永久的に残るから記念品にはもってこい。また、においや花粉がないから、お見舞いにも好評です」とのことだ。順調に進んでいるが、材料不足だけが難点。「花の芯だとか、葉、リースの台などが手に入りにくいんです。この間も、東京の浅草橋まで行って、ごっそり買い込んでいました」。

平成9年には、村に工芸館ができる。そこにはシルクフラワーの展示室もつくられる。「今、内装の相談などを村と話し合っています。多くの方に来てもらいたい。いずれは、大きな作品を展示したり、シルクフラワーの講習会を開いたりしたいと思っています。メンバーのみなさんも、今からとってもはりきっていますよ」と近藤さんは話す。

主婦7人が支える村の特産品シルクフラワー。村長をはじめ村役場、村民の応援を受けて、今後ますます大きく飛躍するだろう。

〔文：赤井美佐穂〕

### ◆シルクフラワーグループ◆

平成元年10月発足。メンバーは現在7人。「養蚕の村豊富村」を「シルクの里の豊富村」として蘇らせた。会の代表者であり、シルクフラワー考案者の近藤郁子さんが指導にあたっている。豊富村農業者研修センターで、月、水、金曜日の午前9時から午後5時まで活動している。村全体のバックアップを受け、メンバーは奮闘中。

代表者：近藤郁子

〒400-15 東八代郡豊富村開原680

TEL 0552-69-2400

## 早野グループ4社から 一番ホットな情報を届けします

### アスファルトプラントを改築

平成7年10月7日八田プラントにてプラント改築工事の起工式が行われました。当社はアスファルトプラントを中巨摩郡八田村に2基、南巨摩郡身延町に1基をそれぞれ設置してありますが、八田プラントは生産能力60t/h×2基を100t/h×1基に集約し、再生プラントを併設、身延プラントはそのまま30t/hプラントを建て替える計画になっています。再生合材は舗装補修工事等で発生する舗装廃材を碎いて利用するもので、省資源・省エネ・環境問題などに非常に有効な技術と言えます。

当社舗装部ではこれまで路上再生技術や再生プラントの研究を積み重ねてきましたが、この度再生プラントが設置できますことは環境問題・資源問題などの社会的意義に加え、付加価値の高い再生合材生産は大きなメリットを得られるものと考えます。

改築工事は本年4月完了予定ですが、これまでと同様に再生合材に関する情報につきましてもお寄せ頂きますようお願いいたします。

(舗装部 土肥智)



### 走るために生れてきた特別なカレン

エンジンは、吸気系に可変吸気システムACIS-III、排気系にステンレスパイプ製エキゾーストマニホールドを採用した高性能ツインカム、3S-GE。そこに、FFスポーツ車専用のスーパーストラットサスペンション、さらにはヘリカルLSDなどを組み合わせることで、シャープなレスポンスとリニアな操縦感、高度なスタビリティを獲得しています。

エクステリアには、フロント、リヤのTDRオリジナルスピーカー、そしてインテリアには、MOMO製ステアリング、カーボンインパネなどの多彩なアクセサリーパーツを採用。スポーティー感を高め、さの走る姿をいっそう鮮烈なものにしている。たった300台だけの特別なカレン、TDRスポーツ装着車。この車のステアリングを握るごくわずかな人々は、幸せなひとときを、確実に共有することになります。



TRDスポーツ装着車

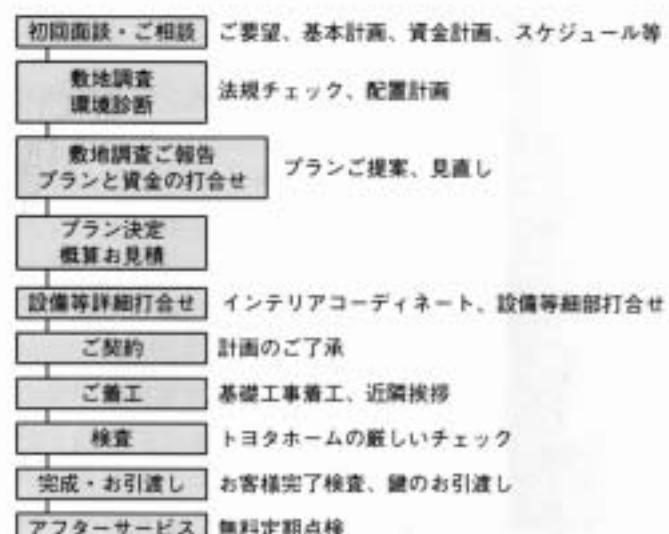
トヨタビスタ山梨県  
本社：甲府市朝氣3丁目10-21 TEL 0552-32-5511

090早野組  
甲府市東光寺1-4-10 TEL 0552-35-1111

### まかせて安心 トヨタホームの家づくり

トヨタホームでは、初回面談からお引渡し、アフターサービスにいたるまで、お客様の家づくりにご満足頂けるよう万全をつくっています。

ここでは、初回面談からアフターサービスまでの流れを紹介致します。



定期点検も2ヵ月後から数回に渡り行われアフターサービスも万全です。

トヨタホームでは、お客様に納得して頂くまで何度も、細かく打ち合わせて頂きます。まちがいのない家づくりを、まずはトヨタホームから始めてみませんか。

トヨタホーム山梨県  
本社：中巨摩郡昭和町河西1043 TEL 0552-75-1234

### 明けましておめでとうございます。本年も相変わらぬ御愛顧の程 御願い申し上げます。

1996年の新春を迎え、また新たな一步を踏み出しました。例年、当社では仕事始めの1月5日の「新年あいさつ会」の席上、県内の事故状況、車両整備の取り扱いについて南甲府警察署、山梨日野自動車株式会社から講師を招いて講習会を行っています。これから、特に3月までは降雪のシーズンでもあります。交通事故、荷物事故を未然に防ぐため、従業員の士気高揚に役立てています。

昨年は残念ながら当社の事故件数が増加の傾向にありました。このため旬間で実施していた安全週間とは別に、8月から運行管理者（9名）で組織している事故撲滅委員会を毎月第一月曜日に開き、部署ごとに選出した安全推進員と担当運行管理者が中心になって行う小委員会を定期化し、事故の原因究明、事故防止案試行、さらにこれが事故0へと繋がるように事故撲滅キャンペーンを繰り広げています。

業種柄、従業員一同会しての場作りが難しいなか、皆が参加できる小委員会を置くことで、事故に対するより厳しい認識が浸透することを狙いとしています。またお互いの仲間意識、連帯感、忌憚のない意見を出し合い、「お客様からお預かりした品物を遅滞なくお届けする」「人の生命及び財産を守る」運送会社の当然の任務を全うできるよう、今年は事故0に向かって進んで行きます。

甲府通運㈱  
本社：中巨摩郡富田畠町流通園地3329-1 TEL 0552-73-0611

ぶどう作りの竹棚は  
甲州勝沼から始まった  
その創始者は名医徳本先生だったという  
さてその実態は？

## 甲斐の徳本

(かいのとくほん)

上野 晴朗

うえの はるお

1923年山梨市生まれ。歴史家・作家。県立図書館郷土資料室を経て67年から文筆活動に入る。著書に『甲斐武田氏』等多数

「甲斐の徳本」といえば、現代の赤提先生のイメージが強い。薬袋を背負い牛に乗って、病に困っている人々を訪り、貧困の者からは治療代も取らないという、仙人のような印象が漂ってくるのである。

この徳本先生が元和年間（1615～1623）に勝沼町の岩崎にひょっこりやってきて、山畠に自然のまま生えている甲州ぶどうを見て、「もったいない。このぶどうは将来この地の名産となって全国に知られるだろう」と言って、竹棚の作り方を奨励、自ら手ほどきしてぶどうの竹棚を作つてやつた。

つまり日本の勝沼で、全国で初めて竹棚作りが始まったというので、徳本先生の行為は勝沼町のぶどう作りの人々からは、大恩人として崇敬されるようになったというわけである。

この甲斐の徳本、経歴を調べると伝説的要素が強く、しっかりした伝記もない。すべて部分的な記録ばかりであるが、『甲斐国志』『甲州古物語』『徳本十九方』などからその足跡を追うと、おぼろげながらその人物像が浮かび上がつてくる。

第一に名前を追っただけでも、「長田徳本・永田徳本・知足斎・乾室・乾道・甲斐徳本・甲斐扁鵲・徳本入道・水戸徳本・三角徳本」など多彩にあり、その出生地も甲斐・美濃・信濃・三河・肥前など様々に書き立てられていて、一定していない。



苦心して作ったロウ人形の甲斐徳本と筆者

死んだ年も諸説があって、寛永7年（1630）2月14日説、同年12月17日説、慶安3年（1650）2月15日説、承応元年（1652）10月15日説と、実際に幅広いのである。この結果、年齢もまちまちで、118歳・117歳・90余歳・73歳など一定しないのである。

どうやら三河大浜説が有力のようであるが、異説本には甲斐国都留郡谷村の人とも見える。

また和歌山市外の大猪村淨土宗乗寿院に墓碑があり、「甲斐国都留郡谷村人長田徳本墓」と銘があるという。これらを検討すると、徳本という人は非常に有名であるけれども、いまひとつ精確に欠け、どうも徳本という人は一人ではないような気がしてくるのである。

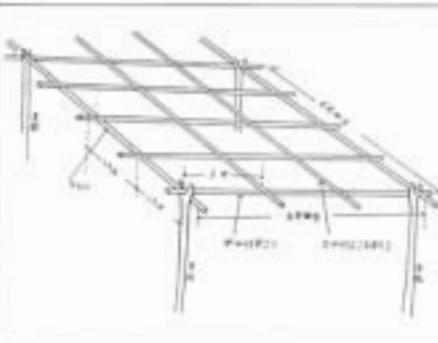
つまり徳本というのは号ではなく、偉い人にささげられた称号で、とくに中世医道の方で徳のそなわった人にささげられたのではないかと察せられるのである。

ただ、私どもが普通考える甲斐の徳本という人物は、とくに甲斐・信濃に足跡が多く見られ、甲州街道が拓かれてからは、この道筋に徳本碑が多いように思う。そして実際に江戸初期、勝沼に入って甲州ぶどうの蔓をそのまま地上に這わせて、きわめて非生産的な様子を見て、竹棚による株仕立てを考案、村人に奨励したのですっかり有名になったように感ずる。

棚架の技術の実際というのは、ぶ



甲斐徳本の著書



徳本が考案した竹棚作りの基本図

ぶどうの國文化館に展示された  
甲斐徳本の竹棚作り指導のガラスエッチング

どうの木1本に竹棚一つという構造である。つまり棚架は六尺四方が原則で、支柱は栗の木を使い四隅に四本立てる。支柱は頭の部分が二叉に分かれています。下やり・中やり・上やりの竹を組み合わせ棚架が出来上がっています。

従って一つの畑にぶどう樹が10本あった場合には、10個の竹棚が並ぶことになる。山畠を遠くから眺めると、まるで魚の鱗が並んでいるように見える。『甲斐国志』もその説明に「山綱ノ畠上ニ架ヲ並べ設ルコト、市中瓦屋ノ鱗次セルガ如シ」と表現している。

この竹棚はのちに明治時代になって、電線にヒントを得て、電信工夫の小松という人と、勝沼町の荻原伝吉氏が竹に代る針金棚を工夫したことにより、全国に普及するようになったが、棚架の基本は甲斐の徳本に始まるのは言うまでもない。

実は、私は甲斐の徳本が、どうしてこのような竹棚を勝沼に普及させたのか、年代も含めていろいろに悩み続けてきた。たとえば戦国末期、長崎などのポルトガル貿易によってもたらされたものにカボチャ棚の普

及である。その構造は支柱に竹を組み合わせて枝葉を這わせる。ひょっとすると戦国末期ころ、徳本は九州地方でこの竹棚を見たのかも知れない。彼の生國の一つに肥前（佐賀・長崎など）となっているのも、彼の足跡を追う材料の一つといえよう。ポルトガル語でカボチャのことをガーボラというが、日本のお茶の世界にもこのガーボラという言葉が取り入れられている。

もう故人となつたが、親しくしていた新田次郎氏がポルトガル取材から帰つてくるなり、私に電話がかかってきて、「ちょうど甲府盆地のよう

な所を電車が走つたが、山付きの畠が一面のぶどう畠で、支柱は栗、竹棚だったのでびっくりしたよ。竹棚は勝沼の発明というがどういうことかね…」と興奮気味に言われた。

私は原点に突き当たつた気持ちで、さもありなんと思い、ポルトガル語で「アリゲッタ、アリゲッタ（有難う、有難う）」と言つたら、新田氏はすぐ私のウイットと源流の意味が判つて、「そうか、日本語の有難うも源流は同じだもんな。そういうえば聖オウガスティヌの祭りに、街道にみん

なコンロを持ち出してイワシを黒焦げに焼いていたよ。やっぱり節分や口焼きが共通としてあるのかね」と、しきりに感嘆するのだった。

それはともかく100年以上続いたポルトガル貿易によって、鉄砲や船のみならず、ワインやぶどう・タバコなど、当時キリシタンなどによつて沢山持ち込まれていることは、ゆるがせにできない事実であった。江戸初期に始まる竹棚の工夫は、どうもそうした外來文化の刺激がからんで、徳本により広められたように思ふ。

ところで今回私は、その竹棚発祥の勝沼町からの依頼で、「ぶどうの國文化館」の構想をねり、二年の歳月をかけてロウ人形の生態展示による施設を完成させた。その中でロウ人形では出しにくい徳本の竹棚作りの光景を、絵コンテであらかじめ作つてあつたので、それをもとにガラスエッチングで壁面空間を飾つてもらつたけれども、建物とマッチし美的に成功したようだ。

この表現によって竹棚の歴史的重要性が普及するのは嬉しい限りである。

# 名画に描かれた動物たち 6

レオナルド・ダ・ヴィンチの天才

山本 育夫

やまもと いくお  
詩人  
ミュージアム・マガジン・DOME（ドーム）編集長

## 描きかけのモナ・リザ

ルネッサンスの巨匠レオナルド・ダ・ヴィンチ。万能の天才レオナルドの人気は、モナ・リザとともに、死んでから五百年近くたつ現在においても衰えることなく、ますます高まる一方である。この天才、しかし、ちゃんと最後まで描き終えた大型の完成作品というものが、ほとんどなかったということを知る人は、案外少ないのではないかだろうか。モナ・リザが、まさか描きかけの絵画だとは、誰しも思わないにちがいない。

レオナルドは、どういうわけかモナ・リザを生涯持ち歩いて描きつづけたのだが、ついに完成することはなかった。このモナ・リザを描く時に、モナ・リザを樂しませるために音楽家と道化師を雇ったというエピソード是有名だ。まったくのところこの天才画家は、モナ・リザを「溺愛」していたのである。

## イエスの誕生

さて、そのレオナルドが描いた最も初期の作品が、この「受胎告知」である。フィレンツェの画家組合で独立した画家として登録された直後の作品といわれている。

レオナルドは1452年4月15日に、イタリアのヴィンチ村に生まれた。たぐいまれな美貌の持ち主だった。レオナルドの父の友人画家ヴェロッ

キオの工房に入り、絵の修業を積み始めたのだが、間もなくヴェロッキオは筆を折ることになる。「この少年が自分よりも色の使い方を良く理解していることを恥じて、二度と絵の具に触れようとしなかった」のだった。

24才の年、レオナルドは男色の容疑で二度も捕らえられているが、二度とも無実のまま釈放された。しかし、本当のところはどうやら男色だったようで、レオナルドは生涯結婚もしなかったし、彼の周辺にはいつも若い美少年たちがいたという。それでながら彼は、男とも女とも性的な関係は持たなかつともいわれているのだ。凡人には理解の及ばないところである。

キオの工房に入り、絵の修業を積み始めたのだが、間もなくヴェロッキオは筆を折ることになる。「この少年が自分よりも色の使い方を良く理解していることを恥じて、二度と絵の具に触れようとしなかった」のだった。左側にひざまづいているのが大天使ガブリエル。右手でお告げをしている感じを表しているようだし、左手には無垢の象徴とされた白いエリを持っている。右側に座っている女性が聖母マリア。二人とも頭部に光り物をつけている。マリアの右手もとには聖書が置かれている。たいていの場合イザヤ書の「見よ、乙女が身ごもって男の子を産む」という一節が開かれているという。

それにも大天使ガブリエルの背中の翼の描写はすごい。鳥の翼を克明に研究した成果が現れて見えるし、また、足下の土にはえている植物群の描写もまたレオナルドらしい繊細さで描かれている。さらに背景の空気遠近法を駆使した風景描写も、実際に水墨画のような趣があって味わい深い。

## 滑らかな描法

少し下向きに見上げている大天使ガブリエルの視線と、伏し目がちに目を合わせている聖母マリアの視線。

「受胎告知」  
レオナルド・ダ・ヴィンチ  
1452-1519  
1472年頃  
フィレンツェ・ウフィツィ美術館蔵



天使の右手指先の形と、それを受け取るかのように立てられた聖母マリアの左手のしぐさ。この両者の向吽の呼吸のようないでたちが、この絵の中では実に自然に柔らかな印象で描き出されている。レオナルドの、線を意識させない描法が、この絵をいやがうえにも滑らかな、つながりのある空間表現へと高めていることは間違いない。

ところで、この瞬間に聖母マリアのおなかの中にはイエスが宿っているわけなので、そういわれてみると確かに聖母マリアの腹部は大きくふくらんでいるように見える。

天使は動物なのだろうか？という疑問は横に置いておこう。おもしろいことにこの絵に登場する二人は、ともに人間ではない架空の存在であるのに、なんという人間臭い顔だちをしていることだろう。この絵を描いた時、レオナルドは驚くべきことに20才そこそこだったのである。これでは師匠のヴェロッキオならずとも筆を折らざるを得ないだろう。その後、五世紀たった現在においてもレオナルドを越える画家が現れないことを見てもうなづけることだ。

## 目に見えぬものを描く

さて、レオナルドの手になるものといわれて、現存している絵画はわずかに12枚である。大作に至ってはほとんどが、未完成か中途でやめてしまつたものばかりであるという。例えば、彼がミラノの教会のために描こうとした「岩窟の聖母」は、完成させなかつたかどで訴訟までされている。レオナルドは完成させることよりも、完成に至る思索の方に重点を置いていた節がある。見えるものの表現よりも、見えない心の中をのぞくことの方に興味を持っていた。それを解き明かすためにおびただしい文章を書き記し、素描を繰り返した。そしてその表現が見つかってしまうと、あとはそれを見る形に定着するだけのこととして、情熱は半減してしまうのだった。

毎日あるテレビ番組で、レオナルドの「最後の晩餐」の修復の様子が伝えられた。本邦初公開ということでその修復に携わっている女性が映し出された。背後に浮かび上がった「最後の晩餐」。この壁画はレオナルドが生存中にもすでに損傷が現れていた。

というのもレオナルドは、それまで壁画に使われていたフレスコ画の手法を用いはず（フレスコは素早く描かねばならなかったから、慎重派のレオナルドには向かない手法であった）、通常の板絵の手法で描いたために起こった損傷であった。さらに爆撃にあい、建物そのものが壊滅的な破壊を受けたのだが、奇跡的に壁画部分だけは残ったのだという。おそらくこの女性修復家は彼女の人生をかけて、毎日レオナルドの壁画を修復し続けるのであろう。その情熱とその魅力ある仕事を得た喜びとに乾杯をしよう。そういう幸運に恵まれることは稀有なことだろうからだ。

こうして五世紀前に生きていた一人の芸術家の作品について、思いをめぐらしていると、さて今世紀中庸期に生を受けたわが同輩の芸術家たちの、来し方行く末にもしばらくは思いを馳せることとなる。この世紀末に居合わせた僕たちの時代の芸術家たちの中から、五百年後のとある日曜日の午後、「こんな芸術家がいたのだねえ」と思い起こされるような芸術家が誕生しているかどうか、その答は、風にきいてくれということになる。

「お花を最後まで大切にしよう 楽しもう」の精神から生まれたアレンジメント 手軽に 気軽にできると 人気上昇中



プレゼントに適度な藤かごにさしたアレンジメント

### ●フラワーアレンジメントって?

最近、本屋さんに行くと「初めてのフラワーアレンジ」とか、「花レッスン フラワーアレンジメント実践500例」とかいう本が目につきませんか? 今まで実用書コーナーの隣に肩身を狭くして「置かせてもらっていた」のに、「フラワーアレンジ」なんていう自分専用のコーナーをもらって、幅をきかせています。あなたの行きつけのちょっと大きめの本屋さんを、注意して見てください。必ずコーナーが設置してあるはず。

フラワーアレンジメントとはそもそも、庭に咲いている花が枯れかけてきて、その中でもまだ枯れずに残っているものを短く切って、花瓶にさしたのが始まり。何種類もの花を一緒に花瓶にさしたので、カラフルな色になったり、茎の長短いろいろな形になったのでしょうか。要するに、「最後までお花を大切にしよう、楽しもう」という気持ちから生まれたものです。藤のかごにさしてあったり、フランス料理のテーブルなどにある丸くてちっちゃなオールラウンド、ホテルのロビーや大きなビルのエントランスなどにディスプレーしてある扇を広げたようなファン、トーク番組のバックにある三角形のトライアングル、三日月型のクレッセントなどなど、数え切れなくくらいのパターンがあります。テレビやレストラン、

喫茶店などよく見てください。結構、フラワーアレンジがありますよ。ちなみに高嶋夫妻の「ごちそうさま」黒柳徹子の「徹子の部屋」は、それをふんだんに使っています。

昔ながらの華道は、堅苦しい、古くさいと敬遠されがちなのに、フラワーアレンジは教室がどんどんつくられ、生徒もがんがん集まって、いまや破竹の勢い。



玄間に飾るとゴージャスな雰囲気に

なぜでしょう? 手軽さ、簡単さに加えて、実用性が高いということでしょうか。日本人の生活形態も変わり、家から和室や床の間が少くなり、洋風の住まいに合うのは、やはり、ガラスの花器やローマ彫刻調の花瓶にさしたフラワーアレンジなのです。初心者の方は、まず簡単な形から作ってみましょう。緑色のスポンジ

“オアシス”や、ネット、丸い刺山を底に敷いた花器などを使って作れば簡単、簡単。部屋のコーナーに飾ったり、お友達への誕生日プレゼント。母の日に感謝を込めてお母さんへ、または、藤のかごにさしてお見舞いの花なんかにしても便利。花瓶がない場合ってあるじゃないですか。

### ●結婚の思い出に手作りブーケ

でも何でたっておすすめなのが、ウエディングのフラワーアレンジ! ドレスに合わせたブーケ、教会のエントランスから列席者のサイドの花、披露宴でのメインテーブルの花、ウエディングケーキとキャンドル台の花、各テーブルの花なんかを、自分で作ることができたら最高だと思いませんか。自分のウエディングにできなくても、兄弟姉妹やお友達の時に作ってあげるといい記念になりますよ。

「姉がブーケを作ってくれたんです。感激しました」(25歳、主婦)「親友にブーケを作りました。私のほうが胸がいっぱいになっちゃいました」(32歳、OL)「フラワーアレンジを習い始めて2年。結婚披露宴のお花は全部自分でアレンジしました。大変だったけど、一生に残る思い出です」(28歳、主婦)。

結婚の予定がある人も、と~ぶんない人も、もう終わっちゃった人も、人生の晴れ舞台で胸を振ることを目標に、さあ始めてみませんか?

### こんなところに山梨思ひがけない場面でふるさと再発見

今昔物語はインド、中国、日本の説話を集めたもので、平安時代の終わり頃に制作されたものらしい、といわれている。インド、中国、日本といえば、当時とすれば全世界にひとしかったから、今昔物語は、世界の人々に語られ、伝えられていたエピソード集ということになる。収録されている話も、千を越える。

古典はあまり馴染みがないが、教科書で読んだ芥川龍之介の「羅生門」「鼻」「芋粥」などは、芥川が今昔物語から題材を得て書いたものである。

さて、このなかに、わが甲斐の国の、美しく、かつたくましい女が登場している。「相撲人大井光遠の妹、強力の語」という話で、兄よりも力があり、相撲取りになつたら全国で

もかなう相手がいないであろう、女に生まれて、ほんとうに惜しいことだ、という内容である。

その昔、甲斐の国に大井光遠といふ相撲取りがいた。青吏はそれほど

### 今昔物語「強力の語」相撲取りの美しい妹は何と、兄よりも強力甲斐の女の名を高めた

ないが太っていて、力があり、足さばきも素早く、なかなかの相撲取りだった。その光遠に、27、8になる美しい妹がいた。

ある時、人に追われてきた賊が、刀を抜いたまま妹ひとりの家に逃げ込み、妹を人質に立てこもった。さっそくこの事件が光遠のもとに告げ

られたが、兄は少し驚く様子がなかった。

告げに行った男が家に戻り、家のなかを窓ってみると、賊は刀を妹に突きつけ、羽交い絞めにしている。妹は泣いていたが、やがて、泣きながらそこに散らばっている2、30本の矢をひとまとめにし、押すと、矢はぐにやりと碎かれた。

賊は驚き、人質にとっていても無駄だとさとり、手足をもぎ取られないうちにと、あわただしく逃げ去つていった。

やがて捕えられた賊に、光遠は、妹は自分の2倍もの力持ちだ、姿かたちはほそりと女らしいが、腕くらべをしても自分の手がしびれるほどだ、と大いに笑った。

山梨の女性は、美しく、そして力持ち、という伝統を今日に伝える説話である。つい、身近に思い出してしまった女性はいないだろうか。男性はことさら、注意もしたい。(寿)

## Book

### 理想の時代の暮らし 「平安の都」

角田文樹 編著



いつも腕時計を眺めては仕事に追われ、歩きながらも携帯電話で大声で話しと、現代人は大忙しであり、また、忙しいことを誇りに思っている向きもある。そうした現代人にとって、初詣の神社に流れる「雅楽」の調べは、なんともおおらかで、心ひかれるものがあった。

雅楽が盛んになった平安時代とは、いかなる時代だったのか。この本は、独創的な文化を生んだ点で理想の時代ともいわれる平安京の暮らしを、分かりやすい話題をとおして紹介している。エリートの生活と題して、貴族の一日も披露されている。

貴族は起床とともに、自分の「星」を7

回唱え、次に顔を見、眉を見て、その日の吉凶を占う。それから洗顔となる。食事は朝と夕の2回で、読書と手習いが日課だった。生活には厳しい規律があり、「人の災いは口から出る」「借りたものはすぐ返せ」「儀式の時はよく先例を調べよ」など、今日に通じるもののがかなりある。爪を切るのにも決めがあり、伸びたから切るというわけにはいかなかった。しかも手の爪は丑の日、足の爪は寅の日と定められていた。

魅力ある生き生きとした人物が次々に登場し、平安時代のエピソードの数々が楽しめる編集となっている。(川)

朝日選書 ¥1600

会いたい人から 会いたい人へ  
知りたいことから 知りたいことへ  
リレーでつなぐエッセイ

## 街並一考



中村 房江

なかむら ふさえ  
「片袖」同人

我が家近くに総合市民会館が建つ、5年になる。その一角は、今、ちょうど、いちょうがきれいに色づいて、白いベンチと、黒っぽい建物のシックなたたずまいが合って、絵画のような詩情をたたえ、洒落た街並になっている。それが建つ前は、甲府商業高校の跡地として、ところどころ壊れた金網にぐるりと囲まれ、雑草が繁り、古びた体育館と、なんとも、貧しげな風景だったので、それが嘘のように感じる。

家の通りも、昨年ごろから、新築ラッシュが続き、狭い通りに、六軒もの新しい家ができる。無国籍的なモデルハウスの展示場という感じがないでもないが…。あたりは、明るくなり、気持ち良い通りとなつた。

こんな風に家が新しくなり、道路が舗装され、又、市民会館のような公的な建物や、大きなマンションが新しいセンスで、次々に建つと、その通りの雰囲気も良くなつていって、それはそれで良いことなのだが、ふと、先月、はからずもヨーロッパを旅する機会があり、フランス、ボルトガル、ギリシャと、いずれも歴史の古い国を廻ったが、短い旅ではあ

ったが、伝統の「石の文化」に圧倒され、知らず知らずのうちに自分の町と比較している自分に気づいた。

本造の日本の建物は、建て替えが当たり前なのだが、最近はビルも壊され、建て替えられているのが目につく。それだけ経済的に豊かということだろうか。

パリでオペラ座や、ルーブル美術館、ノートルダム寺院などの名所はともかくとして、100年前にオープンしたというホテルに泊ったり、街の通りの建物が、すべて何100年という歳月にわたって住み続けられているという話を聞くと、新築することだけが良いとはいえないような気がした。

又、パリから1時間ほど飛行機で西へ行ったところのボーモンのボーモン城では、その城の中で現在も賓客を迎えるレセプションが行われるということだし、街のたたずまいは色彩的にも落ち着いていて、広告などもとてもセンスが良かった。バスケットボールの建物は、新築の時は市や町が屋根の色、壁の色を指定するという話を聞くと、何年か後のことも考え、いかに住む人の心地よさ、全体

の景観を大事に街造りをしているのかわかる気がする。甲府の町のゴッタ煮のような看板やネオンを思い浮かべて、淋しさを覚えたのも事実である。又、ギリシャでも、西洋文明の発祥の地であるアテネ、そのアクロポリスの丘の野外音楽堂は、その夜もコンサートがあるということでライトアップされ美しかった。古い建物をそのまま今も生かして使っているということに感心させられた。

ボルトガルの里斯ボンも又、古い石の街であった。夜、石畳の細い路地を歩いて、ファドを聞きに古びたレストランへ行った。その石畳すらが何100年前には馬車に乗った人々が行き交ったものであるということを知り、感動を覚えた。馬のひづめの音が聞こえてきそうであった。そんな旅から帰つて、私はしばらく、茫然としていた。

しかし、やはり私は自分の住む街が好きだ。少しでもきれいになっていくのは嬉しい。ただその街並や建物が長い歳月を経ても、色あせることなく、いよいよ味わい深いものになつてゆくようなものであつて欲しいと思うのである。

## 甲府通運前史を訪ねる（1）

<甲府通運のページ>

中央線笛子トンネルで名をあげた早野金蔵



笛子トンネル西側口を通過する汽車（明治36年）

林 陽一郎

はやし よういちろう  
山梨県教育委員会・歴史編纂文化財担当

いて日々使用する人達は数千人に達し、笛吹川の改修工事、河口湖の排水工事などはもとより、遠くは東京、

横浜、八王子に及び殆んど甲州の土木界を独占的に支配していった。ところが其の早野組が甲州に覇を成したのは、明治40年の水害以後だが、その人と成りは如何というに、彼は郷里の神奈川県足柄下郡下中村字小舟の出身だが、若い時道楽をして村に居たたまれず、武円の金を握って逃げるが如く村を出て上京、東京有馬組の配下に成り、間もなく其の一方の旗頭となつた。明治29年たまたま中央線の鉄道敷工事がはじまるとき、独立して、笛子以西、以東の工事を請負ひ、当時同業者仲間よりも頗る敏腕の譽れを受け、明治36年に此の鉄道工事の竣工を告ぐると、山梨県当局の識に入り、それ以来県下諸般の土木工事を請負ひ大いに信用を博して居るところへ、40年の大水害に接し、笛吹川の改修工事の手に当つて彼は一手に其の三分の一を請負ひ、之に依つて俄然彼の名声は高まり、

資産は増殖するに至つた。そして遂には飛ぶ鳥も落す早野組を作るに至ったのだから正に風雲児と言ふべく又、一種の英雄と言ふべきだろう。（中略）ところで故早野君は県政界の黒幕で当時の県議など大抵早野君の乾杯みたいだったから満更政治を嫌いでは無かったが自分自身は表面に起きたなかったが彼が中央政界へ出て居れば豪傑政客として一派を成していただろう。

（根津）彼は晩年にはぶつかり酒を止めたが、若い時は斗酒を傾けた酒豪だった。酔つた勢でとりまきの若い者をざらりとへばらせて睥睨する辺りは流石に大親分らしい貴様があつたが、短気だったことは彼の欠点であったけれども、怒った後は実はさっぱりしていた。根が正直者で心は単純、憎めない男だった。

以上が創業者早野金蔵の紹介文である。根が正直で単純な気質で数千人の部下を指揮するにはお互いの和が必要、長い経験から今日の早野グループの社訓「和」がここから生まれたのも当然と云える。

なお同書には文子夫人についても紹介されていることを付記する。

&lt;トヨタビースタ山梨のページ&gt;

車選びにも ファッション性キラリ  
デザイン・機能性・合理性を兼ね備えた  
アリスト ハイエース 「気に入っています」

### 愛・あむ・ニット 株式会社 日野原

「トヨタビースタの車は、副社長専用車のアリストが1台、業務用のハイエースが3台あります。どれも調子がいいですよ」と話す日野原醇社長。「我が社の副社長は、営業マンとして第一線で活躍しています。職業柄、ファッションやデザインに常に気を配らなければならない立場ですので、乗っている車もセンスが問われるわけです。感性を追求するために、常日頃からおしゃれ感を持ち続けることが大切だと考えますので、自分自身を取り巻く環境も、デザイン性を重視しなければなりません。合わせて、長距離を走るので機能性、会社



築していく上では、このような点から気を配るのが大事なことだと考えています」と日野原社長は語る。頭の中

の経営状況から価格も考慮しなくては…と諸条件を挙げていったら、「アリスト」がピッタリだったんです。車選びにも、ファッション業界人ならではの美学がある。「アリスト」という言葉の響き、全体のデザインなど、気に入った点が多くあって購入に踏み切ったのだそう。

「ハイエースの方は、これはもう業務車ゆえに合理性を一番に考えました。主に、協力工場間への運搬に使用しています。とはいえ、我が社の動く広告塔ですので、ただ『物を運べはいい』という感覚ではなくて、統一イメージを持たなくてはならないと思っています。何年かごとに買い換えるても、同じ色(白)にしていま

すし…。1つの会社のイメージを構築していくことでは、このような点から気を配るのが大事なことだと考えています」と日野原社長は語る。頭の中

はいつもファッションのことでいっぱいだ。徹底した主義主張を持っている。「トヨタビースタの担当の方も、メンテナンスの時だけでなく、定期的に顔を出してくれて、話を聞いてくれますからね、よくこちらの気持ちをわかってくれますよ」。ユーザーとメーカーの理想的な関係だ。

そんな日野原社長が、今、取り組んでいるのが「ニットパネル」。ビルのエントランスの壁などに飾る巨大な「ニットの絵」だ。CGを駆使し、ミレーヤ、アンディー・ウォーホールなどの作品を、縦9m横2mなどという大きなニット作品に仕上げる。作品はつなげることによってもっと大きくなる。

「ニットの新しい分野として昔から、こんなことができないかなあと想って、独自にソフトを作り、コンピューターニットマシンを使って織りあげます」。今月26日まで、NTT甲府営業所のギャラリーで、そのニットの作品を展示したニットパネル展が開かれている。興味のある方はどうぞ。その迫力に、驚きますよ。  
〒400 甲府市川田町アリア105  
TEL 0552-20-1717

&lt;トヨタホーム山梨のページ&gt;

ああ、ベビー誕生が待ち遠しい!!  
家族が増えたら お気に入りの  
対面式キッチンで一家団らん



望月剛さん宅 (田富町)

望月剛さん、利江さんご夫婦は、今、幸せいっぱい。一昨年に結婚し、今月11日には、ベビー誕生というウキウキワクワクの毎日だ。「生まれてくる子どものことを考えて、一昨年の12月に建てました」という望月さん。

実は望月さん、早川町雨畑の出身。「子どもの将来のことを考えると、早川では子どもの数も少ないですね、ここで大勢の友達を作つて元気に育ってくれたら」と、田富町に引っ越してきた。

「スーパーや銀行も近いし、住宅街なので静かなんです。住みごこちはとってもいいですよ」と利江さんも言う。

望月さんの勤務先は、雨畑にある実家。父親の静雄さんが経営する建設会社の専務を務めている。「会社までは1時間半かかるけど、子どものことを思うと…、がんばれますよ」。ベビー誕生前から、パパぶりがすっかり板についている様子だ。

「10年くらい前に会社の事務所を

建ててもらった縁で、今回トヨタホームさんにお願ひしました。建築にあたっては、担当の方が身延出身ということもあって、同じ南巨摩同士、腹を割って話し合いました。わがままも言いましたが、とてもよくしてくれて」と喜ぶ望月さんが選ん

だのは、トヨタホームの“メレーゼ”。1Fは和室、リビング、キッチン、2Fは寝室、子ども部屋、和室、納戸という間取り。玄関、風呂、トイレを広々という希望通り、ゆったりとしたつくりになっている。

「中でも気に入っているのは、リビングと対面式になっているキッチンです。家族の顔を見ながら、また、話をしながら料理ができるので、コミュニケーションがとれてうれしい」と利江さん。南向きなので、暖かい日差しがリビングに入ってくるが、それ以上に温かい家族の和が広がる。「その上、耐震性に優れていますね。地震の時、あまり揺れを感じないんですね。近所は揺れた揺れたと騒いでいたんですが」と望月さんが付け加える。

赤ちゃんはもう女の子とわかっている。「今、一生懸命名前を考えています」と、手放して喜ぶお二人。望月さんの実家でも内孫第1号なので、とても楽しみにしているのだそう。

「パパとママ、おじいちゃんにおばあちゃん、それに何といっても、あなたのために建てられた家が待っているんだから、早く元気な顔を見せね、赤ちゃん。



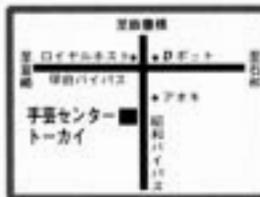


# おしゃれ 手芸センタートーカイ



「とにかく種類が豊富」と中久木店長

営業時間 10:30-19:00  
定休日 無休  
所在地 中巨摩郡昭和町西条4241  
TEL 0552-30-8006



## たべる 魚 保



営業時間 11:30-14:00  
17:00-21:00  
定休日 水曜日  
所在地 甲府市太田町20-6  
TEL 0552-35-7009



### 豊富な品揃え、手頃な値段。 手芸用品の大型専門店、堂々オープン。

昨年の10月24日にオープンした手芸用品の専門店。全国に110店舗以上あるチェーン店のひとつで、山梨への出店はここが初めてだ。「品揃えの豊富さと、安い価格が私どものウリです」と店長が言うように、全国チェーン店ならではの好条件がそろっている。

店内をぐるりと見回すと、毛糸はもちろんパッチワークの材料やステンシル、トールペイント、ドライフラワー、ワッペン、ビーズ、なんとミシンまでそろっている。細かいものから大きな機械ものまで、まさに手芸用品のデパートといった感じ。

お客さんは、やはり圧倒的に主婦が多い。郊外の住宅地という場所柄、買物の行き帰りに寄る人が多い。毎週火曜日に行われるセールの時などは、近所の主婦たちで大賑わいだ。

ただいま会員募集中。入会金500円で1年間有効。定価の1~2割引きで買物ができる他、スタンプの点数により商品と交換できる特典あり。お母さんの手作りの作品に、お子様もきっと大喜びです。

### 創業85年、老舗が誇る伝統の味。 冬場おすすめの寒ぶりを堪能ください。

創業明治45年、甲府市内でも有数の老舗である。パートさんまで含めると総勢30人になる従業員を切盛りするご主人は、この店の三代目にあたります。

「冬場はたいがいの魚がおいしいけれど、特におすすめなのが“ぶり”。油がのっていて、本当においしいですよ」とご主人。寿司種は天然ものを中心に、常時30種類は揃えている。また、今の季節は、あんこう鍋、タラバガニコース(10000円~)、カニ三昧コース(5000円~)などがある。こちらも、ぜひお試しあれ。

店の方は昨年10月26日に新装オープン。店内に芸術的な空間があるなど、非常にモダンなつくりになっている。カウンターも以前より広く設計され、ゆったりと寿司が味わえる。部屋は和室と洋室(イス、テーブル)の11室。最大250名まで収容できる115畳の大広間もある。宴会、結納、法事、商談など多方面に利用できるのがうれしい。寒さも厳しくなる季節、油の乗った冬の魚やアツアツの鍋で乗り切ろう!

## 甲州の野辺にて ③

### 先人の心に還る

「無生野の大念仏」(むしょうのの大ねんぶつ)

志摩 阿木夫 民俗学研究者  
しま あきお

「物の時代より心の時代へ」という提唱は、もう10数年前から。日本人への警告として呼ばれていたが、日進月歩の科学的生活様式の中では、なかなか目に見えて心の時代への姿に触れる機会はない。そればかりか、むしろ、かけがえのない先人からの伝承を「古臭いもの」「無意味なもの」として、目を向けようともせずに、その日その日をただ無難に過ごして行ければ良い、と割り切って生きることが、現代人であると決めつけている傾向さえある。

確かに忙しい世の中であるから、自己中心的な生き方を捉えていかなければ、時流に遅れるという地獄を見ることになるかも知れない。が、それだけで生きるという意味を結論づけていいとは言えない。今生かされていることは、先人のたゆみない努力と忍耐と知恵による。尊い遺産のお蔭だと思うと、時には「先人の心に還る」思考も、持たなくてはいけないのではないかと思う。

このような思考から、各地に伝承されている民族芸能に目を注いだとき、最初に心惹かれたのが、南都留郡秋山村に古くから伝承されている「無生野の大念仏」であった。県東端の山村だけに先人の心に還る伝承芸能が、ここには確実な形で残されている。この芸能が数百年という時を経て、今なお脈々とその心を伝えているのは、その芸能が単に優れているからではなく、この村に生活の場を得ている人びとが、限りなく先人の思いを受け止めて、これだけは失ってはならないと、祖父母から父母へ、父母から子へと、必死に守り伝えて来たものだからである。

この大念仏は、およそ700年前の建武2

年(1335)、建武の中興が完成した直後、足利尊氏との確執の末、鎌倉に追われた後醍醐天皇の王子大塔宮義良親王が、鎌倉の半中で尊氏の弟直義のために討たれたとき、親王の寵妃鶴姫がその首級を奪つて、この地に逃げ延びたという伝説に終わる芸能で、土地の人たちにとっては、遠い日の祖先を偲ぶ大切な芸能である。

現代的な感覚からすれば、これをそれほどまでに伝承することで、どれだけの利益があり、村の生活がどれだけ高まるのかと、目に見える計算をしたくなる。しかし、伝承芸能というものは、そのような実利的な目で見ても見尽くせない。深い悠遠な魂の叫びを秘めた、人間の原点を伝えるものであるから、村の人たちは無心でこれを守り続けているのである。それ故にこの芸能は、「県指定無形民俗文化財」として、確かな価値が認められているのである。

毎年旧暦の小正月と陽曆8月16日の2回、無生野集落の人たちは老若男女、この芸能の施行に心をひとつにして、それぞれ与えられた役目に立ち働く。寒さも暑さも無関係に遠い日の先人と同じように、その心に立ち還って、共に生かされている喜びに燃えるのである。この素朴な心が、つまりは村の平和に繋がり、村の発展を促して



道場と呼ばれる聖域で無心にはじめる保存会の人たち 中央の太鼓はクサビ繪太鼓という古い形の太鼓である

いくのである。ということになれば、この芸能の持つ意味の大きさ、力強さが理解され、「先人の心に還る」ことの尊さ、ありがたさを知ることができるるのである。

こうした民俗芸能は、もちろん秋山村の大念仏に限られたことではない。県下には国および県の指定を受けている伝承芸能(文形民俗文化財)のほか、各市町村が指定するものが数多くあって、それぞれの地域でこの保存に並々ならぬ努力が注がれている。しかしある地域では後継者不足で悩み、またある地域では人々の関心が薄れて、演ずる張り合いかないといった暗い情報が絶えないが、それだからなお「先人の心に還る」人づくりをして、失われようとする大切なものを支えていかなくてはならないのである。

文化は都会だけにあるものではない。山村僻地に脈々と伝承されている“心の文化”こそかけがえのない文化である。その意味からも「無生野の大念仏」には一段と心惹かれるものがある。

## 某月某日

趣味はと聞くとすかさずワークと返事していたモーレツな実力派

社会の変革の波を前にしてたじろいでいる

だが今は身を軽くして試みてみるチャンスもある

積極性 思い切りのよさ スピードがキーワードだろう

・あなたの知的行動を広げるパソコンとネットワーク

・共感が価値観につながり そして欲しくなる通販



×月×日

昨年はオウムもさることながら、パソコンもブームを巻き起こした。今やOA機器のひと言ではなくくなってしまった。火付け役は『インターネット』と『Windows95』。オフィスの効率化から家庭内に、より身近に感じられるようになった。これからは日常的に、気軽に重用されそうだ。

家庭で使うパソコンは会社でのそれと自ずと選択基準が違ってくる。ハードディスクの容量や処理速度などの性能面が重視されがちな会社に対し、家庭ではコンパクトで、いろいろなシーンで重宝するもの。ゲームも楽しめて、話題のソフトも使って、なおかつ簡単操作が持て囃される。

そのパソコンの価値と面白さを高めてくれるのが通信。家庭に1台パソコンがあるというのは、世界中のあらゆる情報にモデルを介していくことでもアクセスできるということ。通信ネットを利用すれば手中に取められる。ビジネス文書のやりとりから、商用データベース、ショッピングからゲーム、etc…と、幅広い。欲しいときに欲しい情

報がすぐ画面に流れ込んでくる。

そして、ビジネスだけでなく学習、趣味、生活全般で大きな変革をもたらす。マルチメディアへの可能性も夢膨らむ。知的行動を広げるきっかけになるにちがいないパソコン。団塊世代の人もそろそろ始めないと、ハードとソフト画面で進展する状況についていけなくなってしまうのでは…。すでに一家団欒の象徴はテレビではなく、パソコンになりつつあるのだから。

×月×日

休日にゴロ寝をしながら通信販売のカタログをゆっくり眺めた。情報誌として見ても中々のものだなあ～と目を通してみると、知らず知らずのうちに商品の特徴を把握して、アレコレ検討していたりする。共感が価値観につながり、そして欲しくなる。きっと“通販”自体をすでに生活の中に取り込んでいるのだろう。

商品のラインアップも多岐にわたり、衣料品、家庭雑貨、食品などのお馴染みの品から、電化製品、ゲームソフト、仏壇、スポーツ用品、はては通

信教育や医療品まで、ありとあらゆるもののが、電話1本で自宅に送ってもらえる状況にある。実際に販売者と直接対面する訳でもなく、もちろん商品を手にして吟味するでもないが、カタログ情報を基に自分なりに、自由気ままに取捨選択できる。

一方、送り手側にしてみれば通販という形態は、届けた商品がそのまま企業の信頼となって積み重なっていくのだから、不良品に対しては自然と危機感を募らせているはずだ。万一品質の確保を怠れば、その時点で消費者の信頼を失ってしまう。そんな微妙なバランスの上に成り立っている合理的なシステムと言えなくもない。

従来、訪問販売のセールスマントーセールスレディの説明の気迫（？）に押されて、必要もないのに契約してしまったという本末転倒、クーリングオフしかできなかった経験を持つ人にはお薦め。フリーダイヤルで詳しい資料を取り寄せて、よく検討して気に入れば購入すればいい、気がすすまなかつたら止めればよい訳だ。今後も潜在需要は増えそうだ。 [文：新海 級]